

図書館たより

号数 第 36 号
発行日 昭和52年 5月14日
編集行 島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852)22-5725
印刷 (有)高浜印刷所



(こども室にて)

子どものための、子どもの本を、

哲学者三木清氏は、「読書は、自ら新しい存在を發明、発見する精神的技術である」といわれている。字づらを知って、その字づらの裏を知る。しかも字づらを知るまでは、だれでもが到達できている共通の広場ではあっても、その裏をさぐりあてていくのは、一人びとりの読者の自主的な意志と創造性に待つほかはない。教師であろうが、親であろうが、そこへ指導をはさむ余地など全くないのである。

子どもが、本を読む姿勢は二つに分けられる。「読みなさい」と云われて読む他律的な場合と、自ら求めて読む自律的な場合とである。

いうまでもなく、自ら求めて完全自律の立場で本を読む子を育てたいと、わたしは願っている。

児童図書 성격から、大人たちは、ややもすると、子ども不在の大人の感覚で本を選んでしまう傾向がある。伝記とか教訓的な本を……。

せめて、この世の中の一隅にでも、子どもたちが自分で考え、自分で実行できる場所はないものだろうか、子どもの「頭の中」だけでも、思いきり翼を伸ばして勝手なことを考え、夢をくりひろげさせられないものだろうか……と。

子どもを読書家に育てる目的の中には、このことが、きわめて重要な現代的意義をもっていることを、わたしは強く主張する。

読書は、今日、市民生活の一部になった。これからの子どもの時代には、読書能力は、市民として必要欠くべからざる資質となることは明らかであろう。したがって読書の教育は、一つの児童文化という柱の中で大きく考えていく必要が出てきている。

これからの、児童図書選択は形式的には、大人が選んでやるが、内容的には、子どもが選ぶということに関係者は配慮すべきである。

島根県立図書館長 目次 安茂

おすすめしたい こどものほん50選

こどもの読書週間は、子どもたちに、本にしたしみ、読むたのしみをすすめると同時に、大人は、子どもの読書とは何か、読書環境は、など、子どもの環境について考える、よい機会です。

子どもはテレビにばかり、かじりついて本を読まないなどという声をよく聞きますが、本当にそうでしょうか。子どもにとって楽しい本が手近にたくさんあり、選ぶ自由さえあれば、子どもは盛んに本を読むものです。

今回は、当館において、多くの子どもたちから愛読され、内容的にも優れていると思われる本、50点を紹介します。まだ多くの良い作品がありますが、今後機会をみて紹介する予定です。(価格は52年4月現在)

〔幼 児 む き〕

だるまちゃんとかみなりちゃん

加古里子著・絵

福音館書店 380円

雨の日に遊びに出ただるまちゃんは、意外なことからかみなりちゃんと親しくなり、雪の国に案内される。かみなり町の絵は、未来都市の夢や子どもに忘れられつつある遊びなどこまかく描かれ、何回見てもあきない。

ちいさなねこ

石井桃子著 横内 裏絵

福音館書店 380円

お母さんねこが見ていないすきに、子ねこが外へとび出す。外には、いたずらっ子や、大きな犬や、自動車など危険なものがいっぱい。おおせいな独立心、冒険心を、たくみにあつかい同時にあたたかくみまもる母親のすがたを描いている。

ひとまねこざる

H・A・レイ著・絵 光吉夏弥訳

岩波書店 320円

こざるは、黄色い帽子のおじさんにつれられて日本にやって来た。そして人まねをして次々といたずらをひきおこす。軽妙な絵とストーリーが子どもの心をとらえる絵本。



しりたがりやのこいぬとたまご

ヘルツィーコバー著 ミレル絵 千野栄一訳

偕成社 780円

かえるの卵を見つけた子イヌは、それをあたためると、小犬たちがたくさん生まれるのではとためしてみる。こどもがもっているしりたがりや、を、うまく物語に取り

り入れたコマ数の多い絵本。

はじめてのおつかい

筒井頼子著 林 明子絵

福音館書店 550円

5才のみいちゃんがはじめて、ひとりでおつかいをするお話。お店ではじめて買物をするオドオドした様子等緊張感や不安さがよく描かれている。

うらしまたろう

時田史郎再話 秋野不矩絵

福音館書店 580円

浦島伝説を詩情豊かな文章とともに、美しいはなやかさとさびしさをもった絵が、この物語を盛りあげている。

11ぴきのねこ

馬場のぼる著・絵

こぐま社 750円

11ぴきのねこが団結して大きな魚を生け捕りにする。いかだに載せて帰る途中、まっ暗な夜がきて……。朝、11ぴきのねこはたぬきのおなか。ねこの仲間同志の協力がユーモラスに描かれ、ピンクと紺のきいたコミカルな絵が楽しい。

おばけのバーバパパ

アネット・チゾン、テイラス・テイラー共著
やましたはるお訳

偕成社 780円

ひとりぼっちで寂しいおばけのバーバパパ。ある日、火事の消火手伝いや、動物園から逃げた豹をつかまえて、町中の人気者になる。奇想天外な発想と鮮明な絵がおもしろく、子どもをおばけファンにしてくれる。

こぐまちゃんえほん

若山 憲著

こぐま社 各450円

このシリーズは、こぐまちゃんをとりまく家庭、友達、遊び、生活をとおして自分の世界をひろげて行く。幼児の日常生活そのものが絵本により再現され、親しみ深い楽しい絵本。こぐまちゃんどうぶつえん等12冊が出版されている。

どろんこハリー

ジーン・ジオン著 マーガレット・プロイ・
グレアム絵 渡辺茂夫訳

福音館書店 600円

お風呂嫌いの犬ハリーは、外で遊び回って泥んこになって帰ってくるが、誰もハリーとは気がつかない。そこで自分から風呂に飛びこむ。という、子どもの経験と物語をたくみに結びつけた絵本。さし絵風の絵が楽しい。

〔低 学 年 用〕

えすがたあねさま

大川悦生著 梅田俊作絵

ポプラ社 750円

民話「絵姿女房」の再話。話の展開のなかで、いつの間にか殿様と農民の地位がひっくりかえるくだりがおもしろい。この物語りは、だれが読んでもそれぞれ質の高い感動を体験するにちがいない。



とけいのほん 1・2 (福音館のペーパーバック絵本)

まついのりこ著・絵

福音館書店 各250円

時計の長・短針を散歩させて、「いまなんじ？」と問う。動きのある単純な絵と、語りかけ調の文章で、時計の見方をやさしく教えてくれる。ペーパーバック絵本の代表作。

ちいさいおうち

バージニア・パートン著・絵 石井桃子訳

岩波書店 1,000円

静かないなかに小さいおうちがたっていた。周囲の環境が時と共に都市化するにつれ、だんだん住みにくくなった。四季や時代のうつりかわりを美しい色彩であらわしている。

かにむかし

木下順二著 清水 崑絵

岩波書店 大型版 1,300円

さるかにのむかし話を、素朴に郷土色豊かに描いた作品。リズムのある語り口のおもしろさや、単純明快な筋の運びが子どもの心によく合う。また墨絵風のおおらかなさし絵は、昔話にふさわしい。

おおきなおおきなおいも

市村久子原案 赤羽末吉著・絵

福音館書店 650円

楽しみにしていた幼稚園のいもほり遠足が、雨で一週間延期になった。つまらないという子どもたち先生は、7日たつとおいもは大きくなると教える。そこから子どもらの空想がふくらみ、無限に広がっていく楽しいお話。

かわ

加古里子著・絵

福音館書店 380円

川、その生い立ちから海へいたるまでを、淡い色調で明快に描く。川の果たす役目、沿岸の建物、人人の生活を細かい描写と、リズムカルな文で説明した観察絵本。

アマガエル (カラー自然シリーズ)

七尾 純構成 小田英智著・解説

桜井淳史写真 偕成社 各880円

昆虫生態写真家グループによるみごとなカラー写真で、アマガエルの一年を描いた本。やさしく楽しい文と、おとなむけの解説がある。卵からおとなになるまでや、食べものをさがし食べるまでの過程等もくわしい。同じシリーズで「カタツムリ」「クワガタ」などあり。

しゃかいの絵本

ポプラ社 各600円

このシリーズは、幼児や小学校低学年の子どもたちに、社会のさまざまな機能をわかりやすいストーリーによって理解させる作品。図書館、郵便、漁業商業、農業、交通、家庭など全30巻

科学のアルバム (既刊50巻・別巻2)

あかね書房 各880円

このシリーズは、わかりやすい説明と美しいカラー写真で構成、著者はその分野の写真家を長年とり続けている学者やカメラマンが主で、科学的にも優れた珍しい写真が多い。

カブトムシ

カブよいからだ、りっぱなつのは、カブトムシには子どもがあこがれている。カブトムシの生活や一生などを土の中までカメラがお届け、しらべている。

きょうりゅう

恐竜は、子どもたちに興味のある動物。ほんものの骨かくをカラー写真や復元図で恐竜時代を科学的に推理している。

【中 学 年 用】

おばけのゆらとねこのにゃあ

ひしいのりこ著

理論社 880円

ゆらとにゃあが、人間世界にあこがれて下界に下るが、公害・交通戦争に毒されて、再び山へまい戻る。新鮮な発想と、絵の軽妙さがいりまじって、暖かいユーモアをかもし出している。

ライラック通りのぼうし屋

安房直子著

岩崎書店 780円

年老いたぼうし屋がヒツジに頼まれて作った帽子、それは遠い夢の世界へ運んでくれるという……。夢の世界を通して、人間の本当の姿を描き出したファンタジーと現実の融合作。

たんたのたんけん

中川李枝子著

学習研究社 500円

たんたは誕生日に探検地図を受け取り、早速出発。するとどこからかへんなひょうの子が現れ、一諸に探検することになった。

子どもの喜ぶ探検話を、明るい色彩とのびのびした画風で描いた「ぐりとぐら」コンビの作品。



おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ

J・ロッシュニマゾン著 山口智子訳

福音館書店 750円

ゲルランゲは強情でわがまま。そうじをおぼえたくないとい意地をはり、ついに森へ追い出される。

根性も愛敬もあるチベリスが、掃除拒否の繰り返しでまきおこすエピソードが愉快である。

ちいさいモモちゃん

松谷みよ子著

講談社 450円

モモちゃんが生まれた時、カレー粉の袋を背負って、たまねぎさんたちがお祝いにつけてきた…誕生から三才までの子どもの成長ぶりが、物事の認識の仕方や、周囲の人間の反応を通して、はっきりとくみとれる。

ぼく、ひとりだけでいけるよ

リリアン・ムーア著 神宮輝夫訳

偕成社 480円

アライグマのリトル・ラグーンは、はじめてひとりで狩りに出かける。途中橋を渡ろうとした時、水の中からだれか見ているのに気がついて、かあさんに報告すると……。

幼児がもうひとりの自分にはじめて出会う経験を軽いタッチで描く。

ジェインのもうふ

アーサー・ミラー著 厨川圭子訳

偕成社 880円

ピンクの赤ちゃんもうふは、ジェインのお気に入り。でも、ジェインが大きくなるにつれて、もうふはぼろぼろになってしまった。

幼児の時の宝物が、大きくなって心の中でいき続ける様子をほほえましく描いている。

星座を見つけよう

H・A・レイ著・絵 草下英明訳

福音館書店 950円

星の名前、明るさ、季節ごとの星図、光年の話、星座にまつわる物語など読者に語りかけながら天体を詳しく説明している。楽しいマンガ風の絵とユーモラスな書きっぷりは星の世界へ誘ってくれる。

たのしい漢字教室 学年別全6巻

友野 一著

ポプラ社 各850円

各学年の配当漢字の字源・筆順をとりあげている。文字のなりたちを絵を見ながら興味深く覚え、ことばとして活用することができる。

はははのはなし (はじめてであう科学絵本)

加古里子著・絵

福音館書店 480円

人間の体の中で、歯の果たす働き、また健康との関連を明確な絵と文で説明し、虫歯予防を説いている。著者も登場して幼児に語りかける知識の絵本。このシリーズには、他に、「ちのはなし」「かずのほん」「たべられるしょくぶつ」等がある。

ゴキブリくん

松岡洋子著

講談社 850円

黒いお手伝いさんが出現して以来、ゴキブリチョロはタイムマシンではなかな過去にさかのぼる。

ゴキブリを科学の対象としてとらえ、自然破壊・公害をおりこんだ科学空想物語。

さとののじてんしゃ

大石 真著

小峰書店 780円

友達が自転車に乗っているのをみて、さとも欲しくなる。頼んでやっと買ってもらったが、ある日事故をおこしかけた。

自転車に対する子どもの願望と事故の危険性を鮮明に対比させ、周囲の配慮の必要性も説いている。

〔高 学 年 用〕

大どろぼうホツェンプロッツ

プロイスラー著 中村浩三訳

偕成社 780円

カスパール少年の家に、世にも恐い大泥棒ホツェンプロッツが現れ、珍事件をまきおこした。

大泥棒、魔法使い、妖精をめぐる、二人の少年が活躍するスリルと冒険、それをドタバタ劇風に展開させている。



四年三組のはた

宮川ひろ著

偕成社 780円

担任の先生に赤ちゃんが生まれると聞いて、父兄は抗議する。が、子どもたちはどんな赤ちゃんが生まれるか楽しみに待っている。

女教師をめぐる現代教育のあり方と、小さい命の尊さを、実体験から描いた学校物。

だれも知らない小さな国

佐藤さとる著

講談社 480円

主人公が森の小山を自分だけの秘密の場所にしたいと願い、小屋を建てようとする、そこはコロポックルの国だった……。

現代生活の中で自分だけの世界を持つと思いつけ、その夢を実現させる過程が克明に描かれている。

算数病院事件

後藤竜二著

新日本出版社 980円

みんなが算数のできる子にと作られた算数病院。でも医者服の服部君が突然教えないと宣言。クラスは大きわぎになった……。

算数の苦手な子どもの悩みに焦点をあて、現代っ子をめぐる教育問題にメスをいれる。

大地に歌は消えない

ウィリアム・アームストロング著 清水真砂子訳

大日本図書 980円

黒人モーゼスは、人種差別によって学習できない黒人のために学校を造った。が、白人の妨害にあい殺される。

モーゼスをとおして、教育・人種差別・人間の生き方を考えさせる本。

大きな森の小さな家

ローラ・インガルス・ワイルダー著

福音館書店 1,200円

ローラたち一家は、大きな森の小さな丸太小屋で自然の脅威と闘う、厳しい開拓生活を始めた。

森の四季・おりおりの森の変化と、彼らのパイオニア精神をうかがうことができる。

君の可能性 (ちくま少年図書館)

斎藤喜博著

筑摩書房 650円

社会や学校に対して不満や不安を持つ人々の悩みを多くの事例でとりあげている。それに対して「人間はだれでも、すぐれた能力をつくり出す可能性を持っている」と勇気づけ、希望を与えてくれる。

お料理しましょう 全4巻

土井 勝等著

日本放送出版協会 各750円

料理研究家が子どものために、料理のコツや扱い方などを、絵と文でやさしく解説。

中国料理・洋風料理・和風料理・菓子が収録されている。

スポーツ全集 全20巻

ポプラ社 各 1,500円

このシリーズは、各スポーツ界第一人者の執筆により、小学生に理解できる各種スポーツのルール、基本的練習方法等を適切な図版と豊富な写真でわかりやすく書かれた入門書。

十三湖のばば

鈴木喜代春著

偕成社 850円

北の国、十三湖のほとりに住むひとりのおばあさんが語る80歳の生涯とは……。

青森の腰切り田を舞台に、夫や子どもを次々と失いながらもたくましく生き続ける豊民の一生を綴る民話文学。

兎の眼

灰谷健次郎著

理論社 1,200円

鉄三は無口で勉強もしない子ども。ところが彼にハエの専門家という隠された一面を発見した小山先生は大奮闘……。

自由に飛び回る子どもの生命力と、現代教育の厚い壁に苦闘する教師たちを赤裸々に描いた教育小説。

私の言いたいこと

市川房枝著

ポプラ社 850円

長年、婦人の参政権獲得運動や政治教育運動に携わってきた著者の、政治と生活に関する啓蒙書。

彼女の主義主張を通して、民主政治確立の必要性がはっきりと伺える。

フェアブル・虫の詩人 (世界の伝記)

エレノア・ドーリー著 榊原晃三訳

学習研究社 850円

一生を昆虫の研究に捧げ、「昆虫記」を著わしたフェアブルの伝記。動物の生命をいつくしんだ生涯を、年代的に追わず、人間そのものに焦点をあてた本書は、他に類をみない。

島根のむかし話

島根県小・中学校国語教育研究会編

日本標準K.K 1,000円

郷土民話研究家が、島根県の各地に語り伝えられている昔話を発掘・採集したもの。語り口を生かしながら再話してあるので、親しみやすい。



台風島の島に生きる

谷 真介著

偕成社 950円

石垣島の初代測候所長だった岩崎卓爾は、気象観測のみならず、民俗・伝統・昆虫などの研究に半生を捧げた。本書は、その卓爾の多彩な仕事ぶりをまとめて紹介したものである。



日本に生きる。全20巻

「山陰編」

国土社 1,500円

各地方ごとの自然と風土・歴史・生活と文化等を豊富な写真と図版でわかりやすく説明している。「山陰編」では、島根県・鳥取県・京都府・兵庫県をとりあげている。

ホタルの歌 (動物の記録)

原田一美著

学習研究社 650円

徳島県の一山村で、先生と子どもたちが、ホタルを守ろうと運動を起こし、3年間観察した記録読物。ホタルの生態が詳しく描かれているので、飼育する人にとって参考になる。

たのしい日曜工作集

公楽工暉著

誠文堂新光社 900円

最近はちょっとしたものでも、すべてできあいの物ですます傾向がある。この本は、おとうさんといっしょに日曜大工をする手作りのよさをいかしたものの。

町村図書センター

分類別利用状況と図書購入内訳

	昭和51年度分類別利用状況											昭和51年度購入図書内訳			
	私記	宗哲教学	歴史	社科学	自科然学	工科学	産業	芸術	語学	文学	児童	参考図書	一般図書	児童書	
日原町 (2000冊)	9	27	68	80	52	56	22	108	5	736	1353	2516	東洋史辞典 西洋史辞典 哲学事典 理化学辞典 故事ことわざ辞典 新和英大辞典 西郷町誌 等12冊	日本の民話 昭和史の天皇 現代美術全集 等100冊	202冊
匹見町 (2000冊)	83	20	99	137	117	191	83	221	7	1506	3300	5764			99冊
石見町 (2000冊)	14	26	102	31	36	35	22	29	21	330	925	1571	紙工芸技法大事典 ふるさとのあそびの事典 重要文化財 瑞穂町誌 続邑智郡誌 新世界地図 等25冊	土とふるさとの文学全集 日本の伝説 等185冊	120冊
仁摩町 (2000冊)	18	11	29	34	35	19	18	66	3	612	1268	2113	くずし字大鑑 かな解読字典 近世古文書解読字典 世界人名辞典 教訓例話辞典 日本名言辞典 俳句鑑賞事典 近代詩鑑賞事典 等18冊	世界文学全集 折口信夫全集 等90冊	100冊
赤来町 (1500冊)	136	101	105	190	126	110	71	243	22	354	1336	2794	重要文化財 17巻	カラー自然ガイド 遠藤周作文学全集 等148冊	98冊
瑞穂町 (1500冊)	31	14	22	22	37	40	25	74	4	366	2137	2772	国民医学大事典 原色日本昆虫・植物・岩石図鑑 コンサイス、人名、地名辞典 現代日本文学大事典 法律用語辞典 等10冊	242冊	67冊
佐田町 (1500冊)	38	28	22	41	11	29	30	79	4	3557	604	1243	日本国勢図会 国民医学大事典 哲学事典 コンサイス、人名、地名辞典、東洋史辞典等16冊 日本史辞典 経済学事典 西洋史辞典	世界の文学 等85冊	105冊
計	329	227	447	535	414	480	271	820	66	4261	10923	18773			
%	2	1	2	3	2	3	1	4	1	23	58	100			

広瀬町

- 1. 設置場所 能義郡広瀬町中央公民館
- 2. 担当者 釈臣正見 楫野光範
吾郷啓三 梅原 雄
岩田 操
- 3. 貸出時間 平日9時より～17時まで
- 4. 休室日 土・日曜日、祝祭日
- 5. 図書購入費 30万円
- 6. 特色

○図書の充実をめざして

在庫図書は現在約3000余冊であり、また分類別のかたよりもあって満足すべき状況ではない。しかし昭和51年度より整備5ヶ年計画を樹て漸次図書購入費や諸経費の増額をはかっている。

さらに県立図書館の指導と図書一括貸出の援助を得て（今年度1500冊を予定）在庫図書の充足を期している。

○読書意欲の向上を願って

地域社会
向上をはか
報「ひろせ」
書や推せん
掲載したり、
文を募集す
を講じている。



の読書意欲の
るため公民館
に新規購入図
図書を紹介を
広く読書感想
るなどの方途

さらに中央公民館読書教室の運営や、自主的な読書会の育成につとめているが、本年度は小学校PTA教養部と提携して、親子読書教室を年4回程度催す計画である。

○その他

残念ながら図書室がやや狭いので閲覧機の台数も少ないので、今のところ貸出を主としているが、本年度は一部地区図書館への一括貸出をして、地区館の充足と活動の促進をはかり、逐年図書の漸増を待って貸出対象館を増加させ、また学校への巡廻文庫の実施を考慮している。

7. 終りに

図書館の地域にはたす役割は大きい。これが推進のためには、専任司書の設置が望まれるが、現在

旭町

- 1. 設置場所 山村開発旭センター図書室
- 2. 担当者 社教指導員 加納洸之（司書）
- 3. 貸出時間 平日午前8時半より午後4時半まで、土曜日午前8時半より正午まで
- 4. 休室日 日曜日・祝祭日
- 5. 図書購入費 39万円（内、17万円は広域圏巡回図書費）

6. 特色 山村開発旭センターが完成して、

今年で6年目を迎えた。センターの完成と同時に、一室が、図書室として当てられ、また、町内で発掘、発見された古の文化財、生活用具等の資料も、一室に展示され、従って、山村開発センターと言う名称ではあっても、いわゆる社会開



のための機能のことのみだけでなく、既に、教養面の向上を計ることが考えられていたのである。こうした考えに基いての山村開発センターであるが、近年の、続いての地方自治財政の窮迫で、十分なる図書費の予算化が出来ず、そこで、町内の有識者に、図書の寄贈を呼びかけ、図書の収集を計り、また、46年度から発足した浜田地区広域圏巡回図書制度にも、苦しい中にも費用負担金の捻出をし、図書を借り受けて、町民の読書意欲に答えるべき、ささやかながらの努力をして来た。こうした努力、活動の結果、昨年から予算書の中に図書費の項目が見られるようになり、そして、幸いにも、今年度は、県立図書館より図書センター設置の認可を受け、従って、これまで以上に、読書による楽しみを知る人口を増していきたいものと考えている。

52年度新図書センターの横顔

では社会教育担当者の仕事のひとつとして運営している実情である。

人事異動

◎お世話になりました。

- 館長 速水保孝（昭和52年3月31日辞職）
- 次長 平野 徹（昭和52年4月1日辞職）
- 主事 福岡耕治（教育庁社会教育課へ）

◎よろしく申し上げます。

- 館長 目次安茂（教育庁総務課から）
- 次長 松本喜雄（教育庁文化課から）
- 主事 石本静雄（教育庁社会教育課から）